

週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月27日(土)

《命の大切さ、尊さを意識しましょう、墮胎について - 教皇様のメッセージより - 》

明日から待降節に入ります。今日は、待降節に入る前の晩です。教皇様より、「待降節を迎える前の晩に、世界中のカトリック教会がご聖体の前で、教皇である私と一緒に祈ってほしい。」というメッセージが出されました。祈る内容は、「命を軽んじるようになってきている世の中が悔い改めるように、そして「命の大切さを意識できるように」というものです。ですから本当は、今日はミサの代わりにご聖体の前で教皇様と心を合わせて祈るべきです。しかし、教皇様のメッセージは2、3日前に届いたばかりで、皆様にお知らせする時間がありませんでした。日本の司教様達が韓国で行われた交流会に参加していたので、たぶんその間に教皇庁からメッセージが届いたのだと思います。だから連絡が間に合わなくて、ファックスで急いで送られてきたようです。私も、先週の日曜日にはこの知らせを全然知りませんでした。ですから、今日はこれを意向としてミサを捧げ、12月1日のご聖体の顯示の時に同じ意向で祈る時間を持ちたいと思います。

教皇様のメッセージは、いろいろなところで話されてきた内容なのですが、一番に取り上げられているのは『墮胎』の問題です。受精したときからそれは尊い命となり、最初から最後までその命の持ち主は神様です。しかし、カトリック信者である私達の中でも墮胎が行われています。それを神様が誰よりも心を痛めて、お怒りになっています。墮胎はそのくらい大きな罪であることを意識しましょう。そして墮胎で犠牲になった命のために祈りましょう。このメッセージは、そのような教皇様の懇切な願いだと思えます。

面白いのは、韓国では法律で墮胎が禁止されていますが、実際には行われている、ということです。法律で禁止されているかどうかに関係なく、どの国でも墮胎が行われているのが現実です。ですから、世界中で墮胎を禁止する法律を作りましょう、という動きもあるのですが、それは意味がないのだろうと思われています。法律があるかないかの問題ではなく、命の尊さを深刻に意識していないことが問題なのではないかと考えられています。

墮胎の問題とともに考えなければならないのは、この前の勉強会でも話し合った『自殺』の問題です。その他に『性暴力』やいろいろな種類の『暴力』も命を軽視してしまう結果、起こることだと思えます。もっと広く言えば『殺人』も同じです。『戦争』もいろいろな『戦い』や『争い』も『喧嘩』も全て同じでしょう。

自分に与えられた命の大切さ、尊さを意識できれば、相手の命の大切さ、尊さもすぐに分かるはずです。しかしこの世の中は、自分に与えられている命の尊ささえ忘れてしまっています。そのような中で、カトリック信者である私たちはどのような態度をとるべきか、どのような生き方をすべきか、もう一回深刻に反省するべきではないかと思えます。

今この瞬間にも墮胎によって死んでしまう子どもがいるのでしょうか。毎瞬、どこかでそのようなことが起こっているのだと思います。しかし、墮胎は許されない大きな罪です。自分自身も破壊する大きな罪です。教会の中にも墮胎の経験がある奥さん達は結構います。信者になる前、また信者になってからも、いろいろな理由で墮胎をした経験を持っている人は結構いると思います。どの教会でも同じでしょう。

私たちは赦しの秘跡の恵みを信じていますから、赦しの秘跡を受ければ罪は免除されるかもしれませんが。しかし母親、父親としての二人は、死ぬ時までその靈魂のために祈らなければなりません。

赤ちゃんが生まれずにお腹で殺された場合、その赤ちゃんの靈魂がどうなるかについては、神学的にもすごく激しい議論が行われました。その時の結論は、赤ちゃんも原罪に縛られる、というものです。赤ちゃんも原罪を持っているのです。赤ちゃん自信は何の罪も犯していないのに原罪を持ってしまい、天国に入れられないのです。私たちは、洗礼を受けることで原罪から救われます。しかし、その赤ちゃんはお腹の中で原罪を持ったまま死んでしまったのです。だから、親が死ぬ時まで赤ちゃんの靈魂のために祈らなければ、その赤ちゃんは救われない、と昔は信じられていました。今はもうそれほど強調されていないのですが、私はそれを信じています。原罪の要理を認めるのならば、当たり前のことです。ですから、親は赦しの秘跡によって赦されたかもしれませんが、死ぬ時までその赤ちゃんの靈魂のために祈らなければならないのです。

私はよく「赤ちゃんに名前をつけなさい」と言います。ガブリエルでもダニエルでも、どんな名前でもいいのです。そしてその名前でミサを捧げなさいと勧めています。もし皆様の周りの誰かがそういう問題で悩んでいたたり、悩むことさえ忘れてしまっていたら、そのように勧めてください。墮胎で死んだ赤ちゃんのために名前をつけて、その靈魂のために必ず祈らなければなりません。司祭も、墮胎で命を奪われた靈魂のために祈ることが重要な役目の一つとされています。

皆様、命の大切さについてもう一回深刻に考えてみましょう。私たちがいただいたこの命は、いつかもっと豊かにしてイエス様に返さなければなりません。それを意識できる豊かなミサになってほしいと思います。

ありがとうございました。